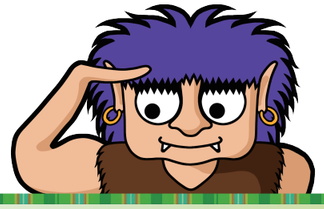
# 託賀郡 賀眉里（たかのこおり みのさと）



## 賀眉の里

土地の肥沃さは下の上です。
この里は杉原川の川上にあるので、
「賀眉里」と名付けました。

## 荒田村（加美区南部～中区北西部）

あるとき、この地にいらっしゃる道主日女命（みちぬしひめのみこと）という神様が、父親がいないのに子どもをお産みになりました。

東から「荒田村」方面を望む

そこで、父親が誰かを見分けるため、儀式（「盟酒」：うけいざけ）を行うことになりました。儀式に使うお酒をつくるために、七町の田を作ったところ、七日七夜のうちに稲が実り、お酒ができました。多くの神様を集めて、生まれた子どもに父親である神様にお酒を捧げさせると、天目一命（あまのまひとつのみこと）に捧げたので、天目一命が父親だとわかりました。

後に、酒米をつくった田は荒れてしまったので、荒田村と名付けられました。

## 荒田神社（加美区的場）

『播磨国風土記』にはこの地域の神社名は出てきませんが、「荒田」という地名を冠し、播磨二宮とも呼ばれる荒田神社が『播磨国風土記』にゆかりの深い神社だとされています。

荒田神社

坂上田村麻呂の崇敬を受けたという伝承をはじめ、「式内社」としても早くから歴史に登場し、この神社に近接する丘の上には天目一命を祀る「天目一神社」も鎮座しています。

現在のご祭神は、少彦名命（すくなひこなのみこと）、木花開姫命（このはなさくやひめのみこと）、素戔嗚尊（すさのおのみこと）の三神ですが、古くは道主日女命と天目一命の夫婦神が祀られていたとも考えられています。

## 花波山（八千代区　脇田山）

花波山は、近江の国の花波之神（はななみのかみ）がこの山にいらしたので花波山と名付けられました。

花波山

※「花波山」は託賀郡法太里（ほうだのさと）に記載されており、八千代区中野間には「花ノ宮」という地名が残っています。また、丹波と播磨の国境として記されている「褒坂」（みかさか）は、西脇市と加西市の境の「二ヶ坂」が遺称地とされています。

## 大海山（中区　妙見山）

大海（おおみ）という名がついたわけは、昔、明石郡大海の里の人がやってきて、この山のふもとに住んでいだので、大海山といいます。松が生えています。

※妙見山のふもとには、県内最大級の石室を持つ東山古墳群（6世紀後半～7世紀半ば頃）が位置しています。のちの「託賀郡」を運営していたリーダーたちの古墳と考えられます。『播磨国風土記』にある、「大海山のふもとに住んだ」人々なのかも・・・。

大海山（妙見山）と東山古墳群

## 天目一神社（加美区的場）

荒田神社の西北の丘の上にある小社。

「めひとつさん」と呼ばれて親しまれており、4月にはお祭りが行われます。

天目一神社

天目一命は、町内では他に、山寄上（やきよりがみ）・青玉神社、鳥羽（とりき）・青玉神社、清水（きよみず）・西宮神社で主祭神として、鍛冶屋（かじや）・大歳金比羅神社、間子（まこ）・加都良神社では摂社として祀られています。